

令和6年度福知山市部活動改革検討会議
第3回会議次第

日 時：令和6年10月18日（金）

午後3時00分から

場 所：総合福社会館22・23号室

1 開会あいさつ

2 福知山市における地域移行に係る実証事業の実施について

（1）令和6年度実施種目の状況について

（2）令和7年度以降の実施種目ヒアリング状況について

3 基本計画について

（1）基本理念

（2）基本方針

4 基本計画概要版について

5 実施・運営体制について

6 移行スケジュールについて

7 その他

8 閉会あいさつ

R6年度実証種目状況

NO	競技	開始日	開催場所	指導者	会場までの送迎	現在の取組み状況	今後の取組み	備考
1	サッカー	10月から2回	桃映中・六人部中・S-LAB	兼業兼職教職員、外部コーチ	現地集合	バス送迎について ①スクールバスの運行なしでの実証実施を学校・保護者に依頼した。 ②スクールバス委託会社と部活動地域移行での運行の見通しをヒアリング ③民間バス会社にヒアリング	地域クラブ化予定・南陵中、日新中を今後どうするか？	
2	ソフトボール女子	9/7,14,21,24 10月以降も毎週土日どちらか実施	南陵中・成美高校ソフトボール場	兼業兼職教職員、外部指導員、専門指導員	現地集合	①ALL福知山で募集したが、結果以前からの南陵中・日新中のソフトウェア部員11名であった。今までと同様合同チームではあるが、地域移行を見据え、土日はホリデークラブで実施中。 ②ソフトボール協会とソフトボール顧問で打合せを行い、連携を確認した。	ソフトボールの競技人口増加について、ソフトボール協会と検討する。	
3	バスケットボール(男子)	9/28、10/5、10/12、11/30、12/7、1/18、1/25、2/8、2/15実施	610ベース・川口中	バスケットボール協会	現地集合	男子・女子を同じ会場で実施		
4	バスケットボール(女子)	9/28、10/5、10/12、11/30、12/7、1/18、1/25、2/8、2/15実施	610ベース・川口中	バスケットボール協会	現地集合	男子・女子を同じ会場で実施		
5	バレーボール男子	9/15、毎月第1・3日曜日午後	桃映中体育館	バレーボール協会	現地集合	現在登録6名で実施中。今9の、バレー未経験者が1名登録予定。	大会出場等を検討する。	
6	剣道	10/12、毎月第2・4土曜日午前	武道館、桃映地域公民館等	福知山剣道連盟	現地集合	10/12初めて開催。 今後、継続して実証実施予定。		
7	合唱	未定	市民交流プラザ	福知山合唱連盟	現地集合	登録者0人。 合唱連盟と協議し、年度内は継続して募集を呼び掛けることとなった。	合唱の実施について	

令和6年度地域移行実証事業種目別参加申し込み状況

R6.10.18 現在

学校名	学年	サッカー	ソフトボール	バスケットボール 男子	バスケットボール 女子	バレーボール 男子	剣道	合唱	合計
桃映	1年	0		3	5				8
	2年	2		3	1				6
	計	2		6	6				14
南陵	1年		0			1	2		3
	2年		4			0	9		13
	計		4			1	11		16
成和	1年	1				2			3
	2年	3				2			5
	計	4				4			8
六人部	1年	0			3		1		4
	2年	7			1		0		8
	計	7			4		1		12
川口	1年			4	6				10
	2年			4	1				5
	計			8	7				15
日新	1年		1			1	2		4
	2年		6			0	1		7
	計		7			1	3		11
三和	1年								0
	2年								0
	計								0
夜久野	1年			1	2	1			4
	2年			1	0	0			1
	計			2	2	1			5
大江	1年								0
	2年								0
	計								0
合計	1年	1	1	8	16	5	5	0	36
	2年	12	10	8	3	2	10	0	45
	計	13	11	16	19	7	15	0	81

※成和中2年生 サッカーとバレーボールに登録1名あり

令和6年度福知山市部活動地域移行【基本計画】

1 部活動地域移行の背景

はじめに

2 国及び京都府の動向

- (1) 国ガイドライン
- (2) 府ガイドライン

3 本市の現状と課題

- (1) 学校部活動の現状
- (2) 学校部活動の課題
- (3) 意向調査

4 本市地域移行の基本的な考え方について

- (1) 基本理念
- (2) 基本方針

5 地域移行基本計画の内容について

- (1) 位置づけ
- (2) 対象者
- (3) 実施・運営体制
 - ・ 主管部署の整理
 - ・ 外部ステークホルダーの整理（推進体制イメージ）
- (4) 活動場所
 - ・ 学校施設の対応
 - ・ 市の管理するスポーツ/文化施設の対応
- (5) 活動日
 - ・ 平日の移行
 - ・ 部活動指針（適切な休養日等の設定）
- (6) 財源
 - ・ 会費
 - ・ 生活困窮者への対応
 - ・ 企業版ふるさと納税の活用

- ・ 基金制度

- ・ その他

(7) 指導者

- ・ 求める指導者像（体罰・ハラスメント等）

- ・ 応募フロー（応募、面談、採用、研修）

- ・ 資格、研修制度設計

- ・ 謝金管理

- ・ ツール導入

- ・ JSP0 資格

- ・ 兼業兼職の整理

(8) 安全管理

- ・ 保険加入

- ・ 熱中症

- ・ 怪我

6 大会参加について

- ・ 大会の在り方

7 今後の進め方

- (1) 今後のスケジュール

- (2) 基本計画の見直しと更新

資料編

1 理念

「あらたにできる、ながくできる、いろいろできる」

福知山市の部活動は、少子化による生徒数の減少により、学校によっては望む部活動ができにくい現状があります。

そんな中で、部活動の地域移行により、子どもたちがやりたい部活動ができる環境をゼロから構築し、子どもたちが「あらたに・ながく・いろいろ」な文化・スポーツに触れる機会を地域とともに構築することを目指します。

2 目指すもの

(1) 生涯スポーツ・文化活動を「できる」

学校によってはこれまで部活動になかった種目から、生涯親しめるスポーツ・文化活動に出会えるようなきっかけを、子どもたちに提供することを目指します。

(2) 新しい活動が「できる」

既存の部活動になかった、ニーズの高い、様々な種目に挑戦できる環境を整備します。

(3) 将来にわたって継続して「できる」

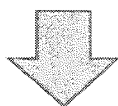
将来にわたって子どもたちが活動できる場を維持できるよう、財政面においても持続可能な活動体制を構築します。

(4) いろいろなかたちで「できる」

子どもたちが興味を持った活動に気軽に触れることができるよう、個人が活動内容を選択し、複数の活動に参加することも容認されるような、多様な形態で活動できるような環境を整備します。

(5) みんなと「できる」

従来の「学校ごと」というくくりを超え、市内中の中学生（将来的には小学生も含め）が、交流することができる場の構築を目指します。



- ①子どもたちの多様なニーズに応えられる環境が整えられることで、子どもたちだけでなく、地域が活性化する。
- ②地域が一体となり、誰もがより身近に文化・スポーツ活動に触れ、取り組むことでさらなるスポーツ及び文化芸術の振興につながる。

あらたにできる ながくできる いろいろできる

みんなと

生涯スポーツ

・文化活動が

できる！ふくちやま

いろいろなカタチで

新しい活動が

将来にわたって継続して

2026年 中学校部活動は「KOBE◆KATSU」へ



神戸市教育委員会

「部活動」から「地域クラブ活動」へ



●部活動を取り巻く状況

子供たちの健やかな成長に大きな役割を果たしてきた部活動ですが、生徒数の減少等によるやむを得ない廃部や、単独で試合に出られない学校が大幅に増えるなど、今後子供たちの活動の選択肢がさらに少なくなることが危惧されます。また、これまで教員が自身の時間を削り、わずかな手当だけで支えてきましたが、全国的に教員不足が深刻化する中で、部活動の仕組みは限界に近づいています。



●「KOBE◆KATSU」への移行

神戸市では、部活動が果たしてきた役割を踏まえ、時代の変化に対応し、将来に渡って子供たちが主体的に選択し、多様な活動に参加できる機会を確保することを目的として、2026年度より平日・休日ともに、生徒が地域の方々とともに活動する

「神戸の地域クラブ活動」

= 「KOBE◆KATSU(コベカツ)」

への完全移行を目指します。



- 地域のスポーツ団体をはじめとした幅広い団体が主体となり、中学校の施設を活用し、スポーツや文化活動など、子供たちに活動の場を提供します。
- 活動団体は登録制とし、教育委員会が公募し、審査を行った上で登録します。
- 「KOBE◆KATSU」の各クラブの運営に必要な最低限の費用は原則として各家庭にご負担いただく予定です。（会費制）

「KOBE◆KATSU」とは

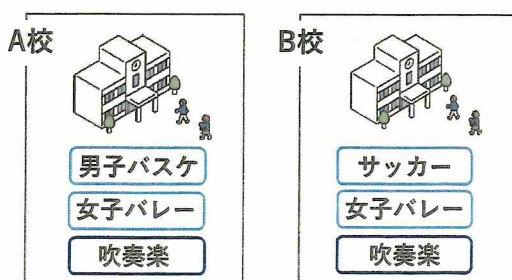
「KOBE◆KATSU」コンセプト

- 校区を越えて子供たち自身が「やりたいこと」を選んで活動します。
- 部活動になかった新種目や気軽に取り組める活動などニーズに合った活動の場を提供します。
- 子供たちが活動の主役となり、大人が一方的に勝利至上を押し付けません。

●校区を越えて参加できる「KOBE◆KATSU」クラブ

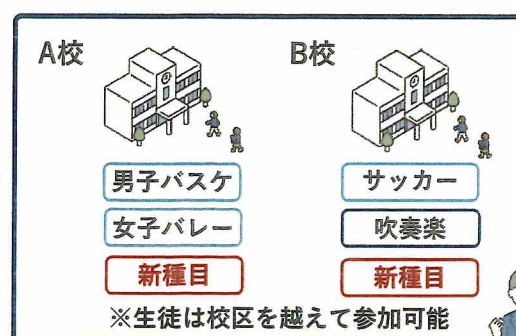
新種目を含めた選択肢から「やりたいこと」を選んで参加できます。

<これまでの学校部活動(例)>

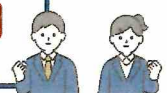


※原則として生徒は各校の種目から選択

<KOBE◆KATSUクラブ(例)>

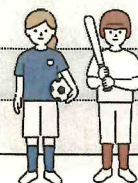


※生徒は校区を越えて参加可能

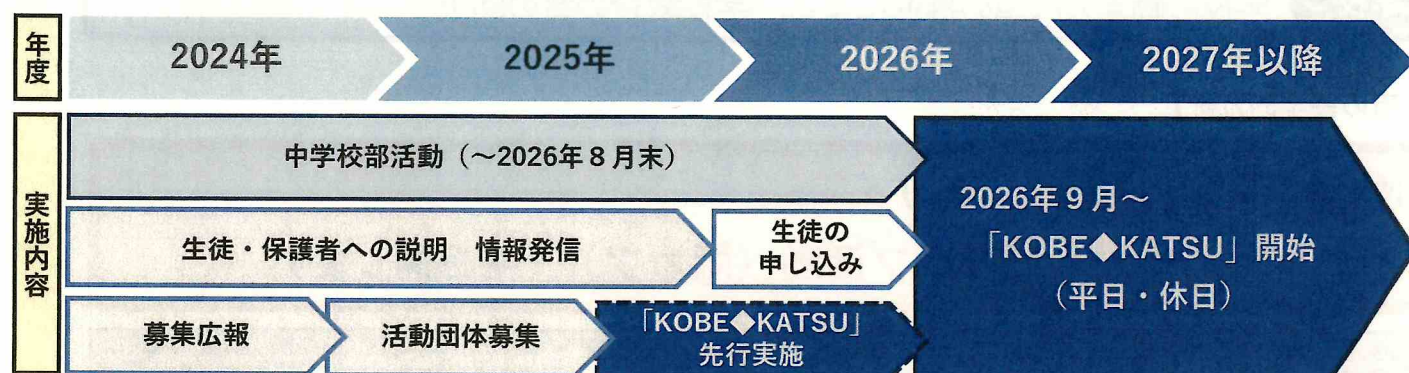


●部活動と「KOBE◆KATSU」の比較

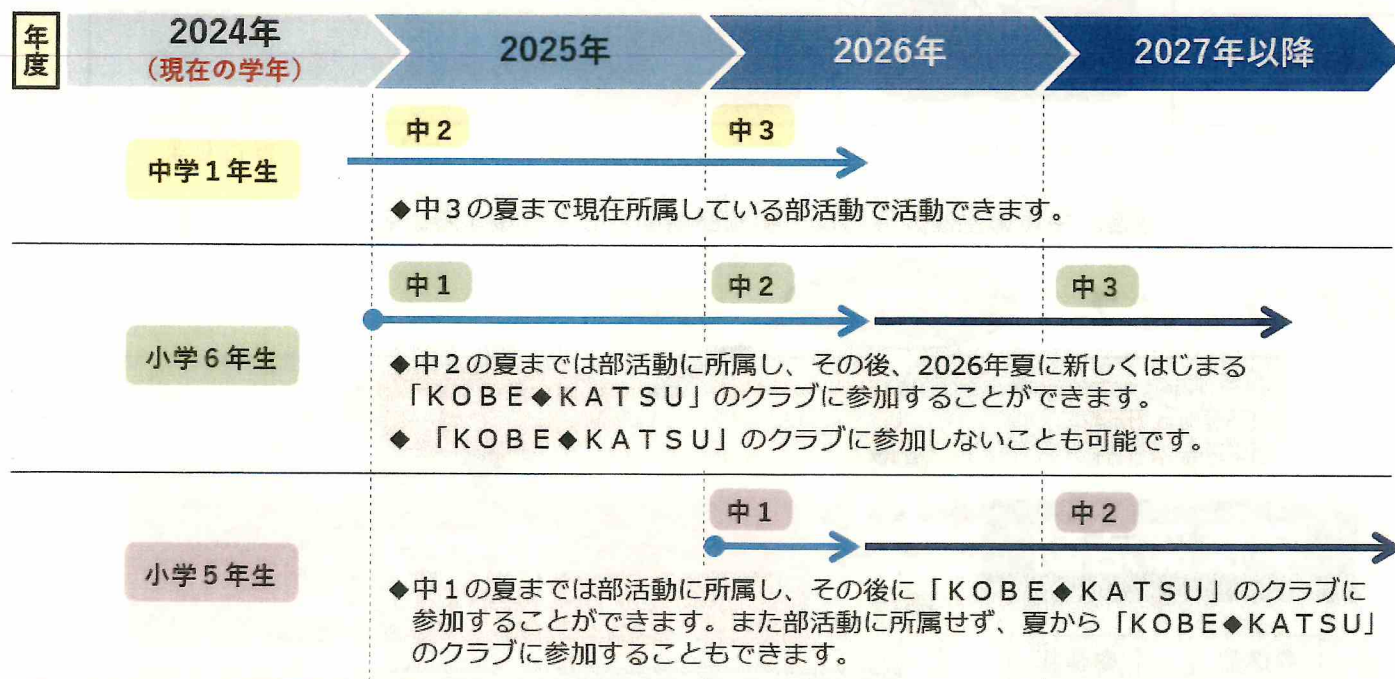
	中学校部活動	「KOBE◆KATSU」
運営主体	学校	地域の様々な団体（登録制）
指導者	教員、部活動指導員	地域の指導者、希望する教員（兼職兼業）
参加者	当該校の生徒	生徒等（参加範囲を柔軟に設定）
活動場所	学校施設	学校施設、地域の諸施設
費用負担	部費（実費相当）	月会費等
保 険	日本スポーツ振興センター災害共済	スポーツ安全保険



移行までのスケジュール



●移行期間における対応



※2026年夏よりも前から先行実施する「KOBE◆KATSU」もあります。

子供たちがワクワクするような活動となるよう取り組みを進めていきます。
取り組み状況やよくある質問と回答（Q＆A）は随時更新しますのでこちらをご覧ください。

神戸市教育委員会 児童生徒課



姫路市立中学校・義務教育学校 部活動改革（部活動地域移行）について【概要】

可能性は無限大∞ ～ブカツから姫カツへ～

【めざす姿】

生徒 多種多様なスポーツ・文化芸術活動に参加できる機会の確保

地域 多世代の交流による新たなコミュニティの創出や絆の強い地域づくり

学校 学校の働き方改革の推進による、学校教育の質の向上

【本市の基本的方針】

「休日」の学校部活動」にかわり

「**新たな地域クラブ活動（姫カツ）**」を展開します

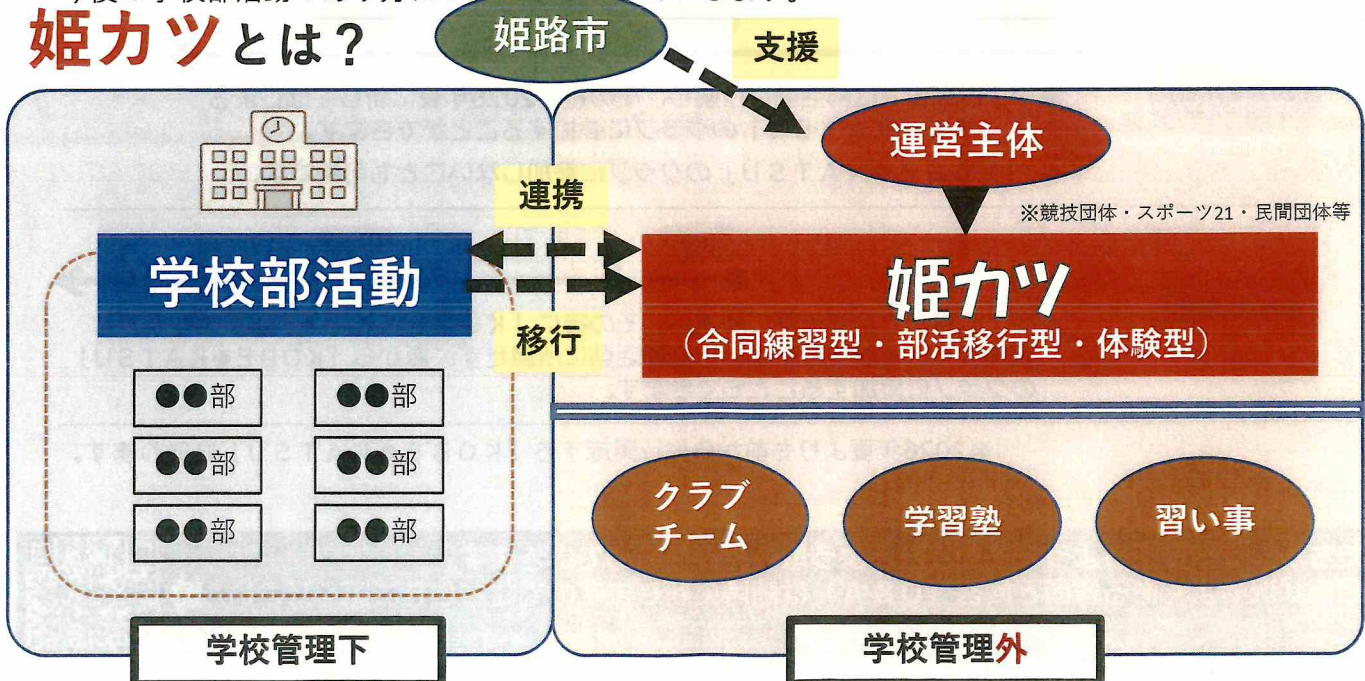
	令和8年総体まで (2026年)	令和8年総体以降 (2026年)
平日	学校	学校 これまで通り学校で行う
休日	学校	地域 姫カツなど学校管理外の活動

* 令和8年度の部活動が1・2年生(現小学校4・5年生)主体になった段階で、休日の活動を移行します。

* 学校部活動がある場合、中体連主催大会には、学校部活動として出場することを基本とします。

* 今後の学校部活動のあり方についても検討していきます。

姫カツとは？



姫カツのモデル構想

モデル	内容	大会出場
合同練習型 地域クラブ活動	・全市やブロック単位で休日の合同練習 ・大会のない週休日やオフシーズンに実施	学校
部活移行型 地域クラブ活動	・学校と地域等が協議・連携して部活動を移行 ・中体連主催大会への参加申請も可能 ・平日の完全移行も想定 ・各小学校区のスポーツ21への加盟	学校 または 地域クラブ
体験型 地域クラブ活動	・中学生向け、または中学生が参加可能な講座・教室の開設 ・多世代型、レクレーション型、複数種目など多様な形式の活動も想定	なし



Q.大会やコンクールはどうなるの？

A.まずは、休日の学校部活動を地域クラブ活動に移行することを目指しています。ただし、大会やコンクールは、これまで通り、学校部活動として出場することも想定されるので、各競技の大会等に影響がない休日の活動を中心に移行することになります。



Q.どのような人が指導するの？

A.各競技団体から派遣された指導者、元教員、地域クラブ活動で指導を希望する現職の教員などが指導者として関わる予定です。また、各競技の指導者資格を持つ方や競技経験がある人など、地域の方々も指導者やスタッフとして関わってもらえる体制づくりを目指しています。



Q.子どもたちにとってのメリットは？

A.学校の枠を超えることにより、子どもたちの選択肢が広がることになります。また、一定の活動人数が確保されることで、団体競技が成立し、専門的な指導でスキルの向上も期待できます。市内の部活動にない種目のスポーツ・文化芸術活動の創設や、大会出場を目的としない健康・レクリエーション志向の活動、中学生以外の多世代交流型の活動などの実現も検討しています。

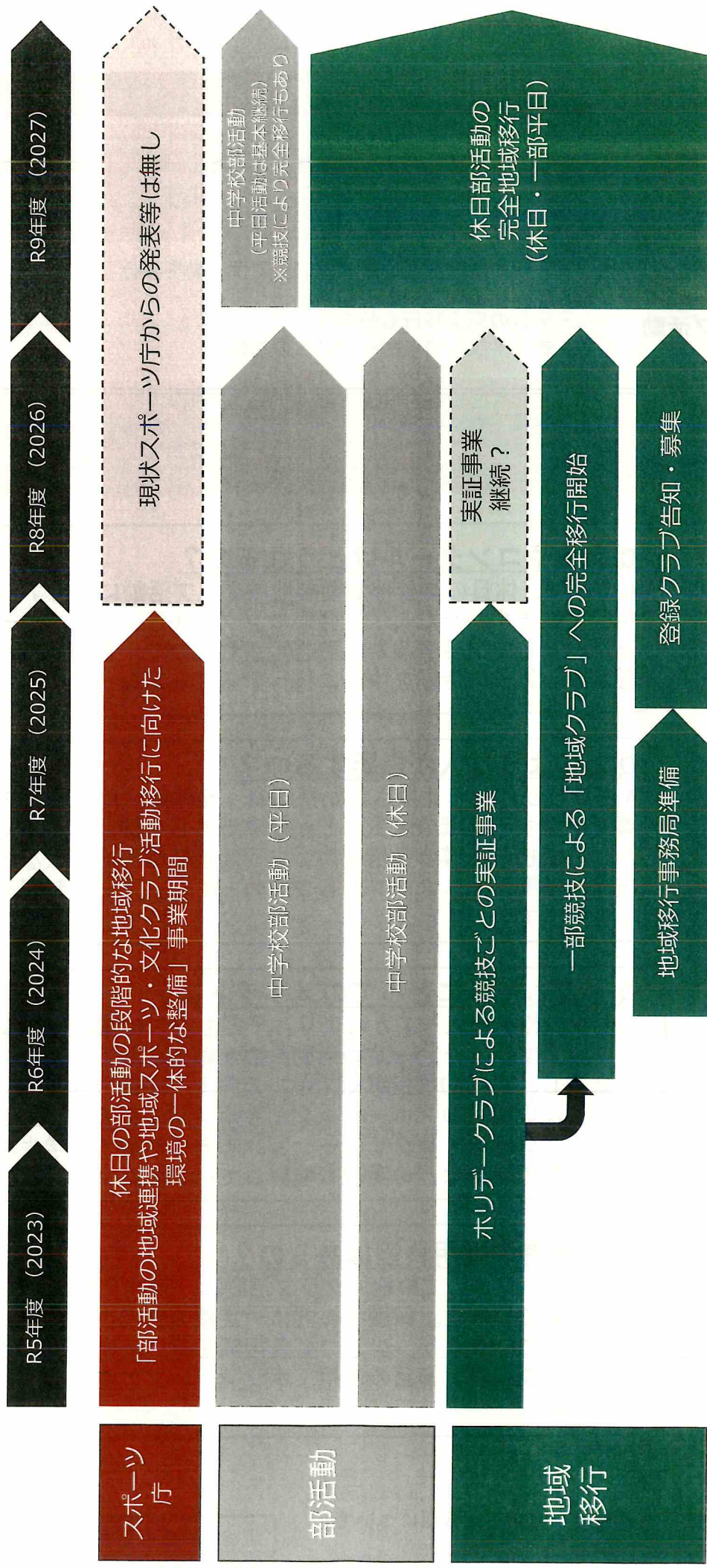


Q.保護者の費用負担はあるの？

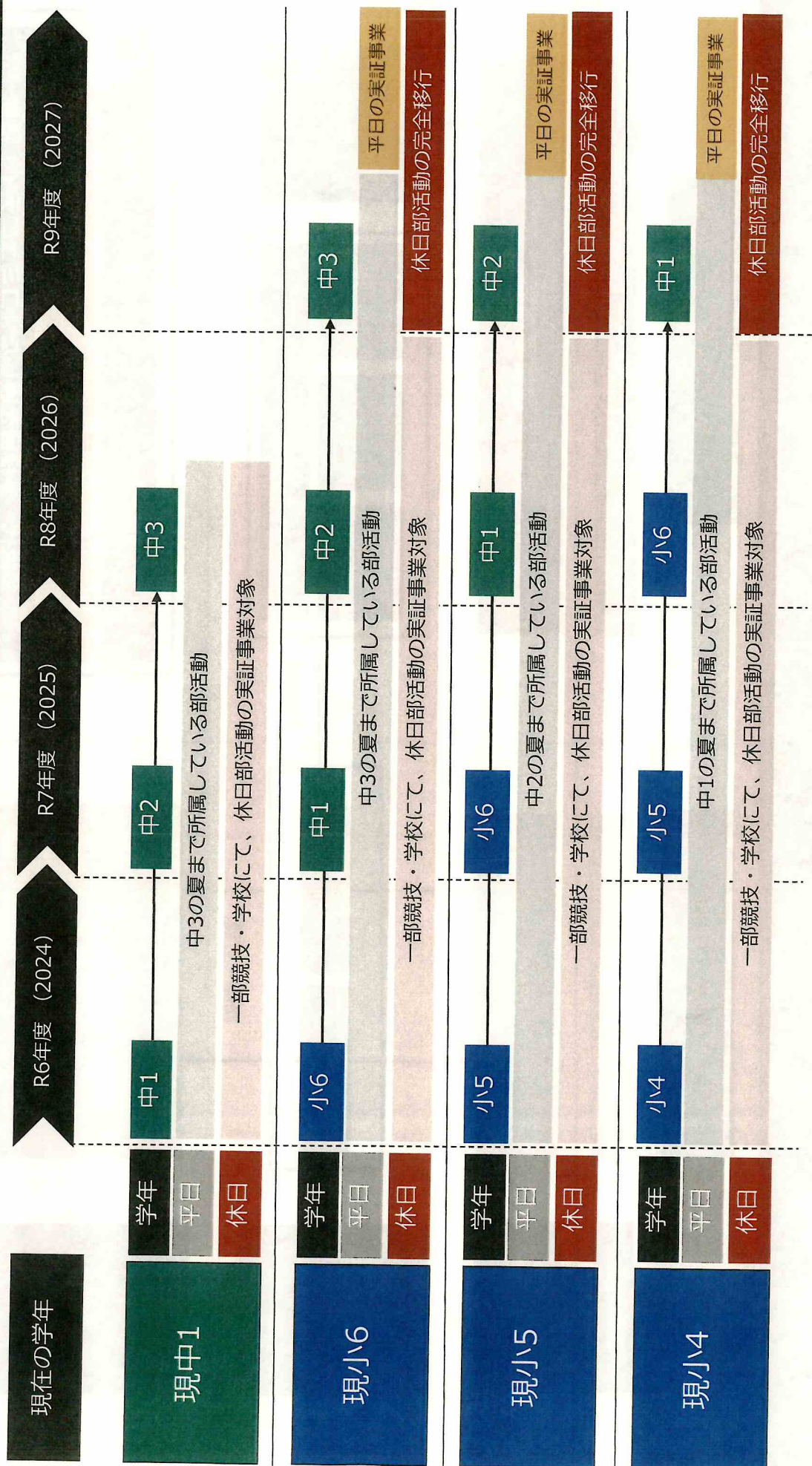
A.「姫カツ」としての地域クラブ活動は、現在、姫路市の補助金が交付されています。保護者の方に一定額の負担をしていただくことを想定していますが、少しでも負担額を抑えるために、適切な会費設定や学校施設・備品の使用、ボランティアの活用などを検討していきます。



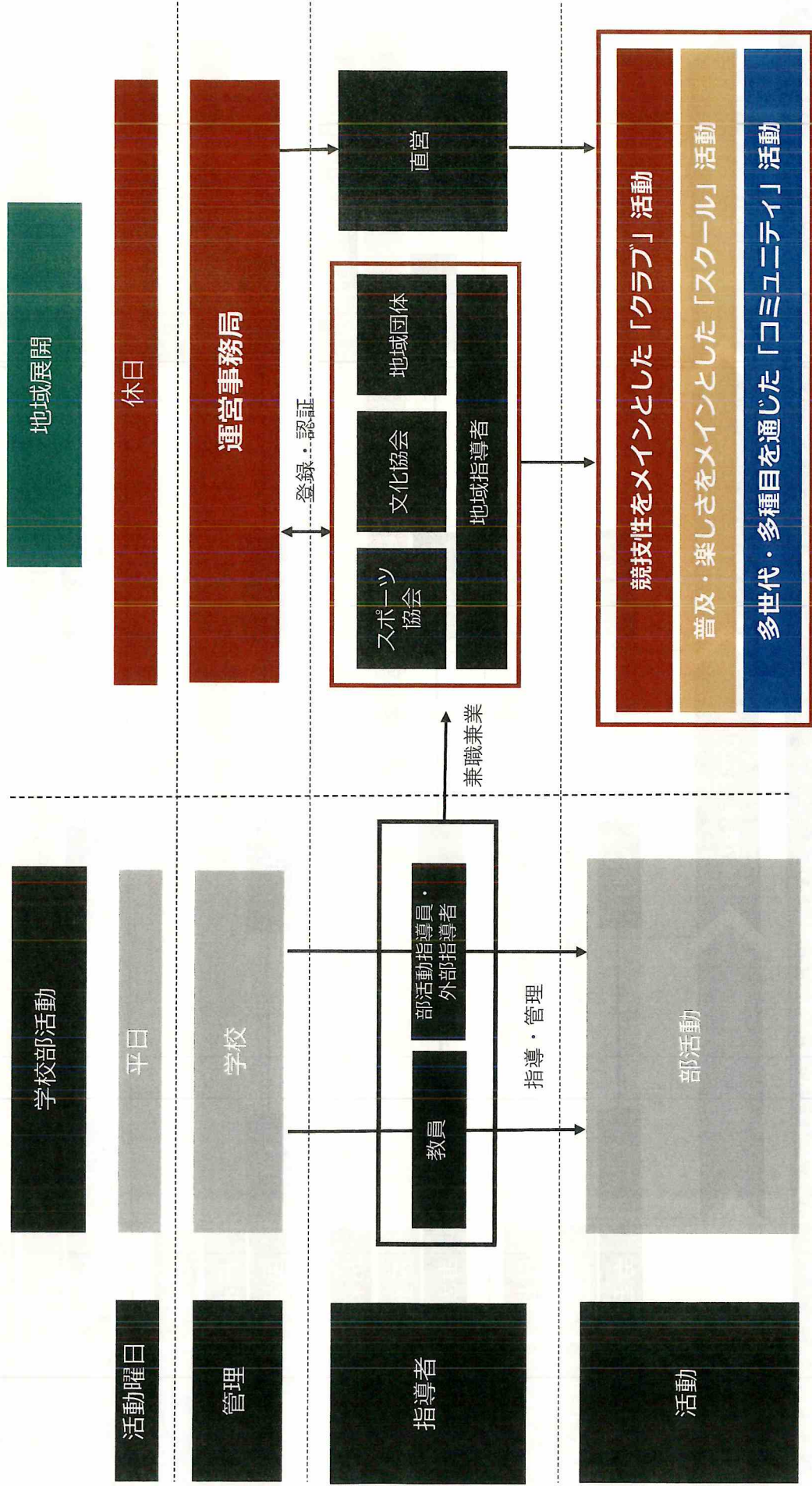
移行スケジュール案



移行スケジュール案（学年別）



平日／休日活動の整理



平日を残した場合の想定される課題

<運営面>

- ・ どの条件まで部活動として残り続けるのか（1名でもいたら部活として残すのか）
- ・ 全員加入制の可否
- ・ 大会運営（部活動だけで大会を継続するか、地域クラブの参加を認めるか、主催は中体連か等）
- ・ 合同部活動、拠点校型をいつまで継続するのか（統廃合の負荷）
- ・ 休日の学校施設の利用のルールをどうするか
- ・ 学校ごとのテスト／イベント期間を揃えることが可能か
- ・ 平日と土日の指導者が違うパターンの可否

<予算面>

- ・ 兼職兼業される教員においては、平日は無償、休日は有償でやり続けるのか
- ・ 部活動指導員等をどこまで配置し続けるのか
→ 主管部署が「教育委員会」外となった場合、謝金等の予算をどう確保していくのか
- ・ 土日の活動でバス運行対応をしていた学校の対応はどうしていくのか

<その他>

- ・ 資格制度の整理
- ・ 平日移行を希望する競技への対応